

3. 刊行物・主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

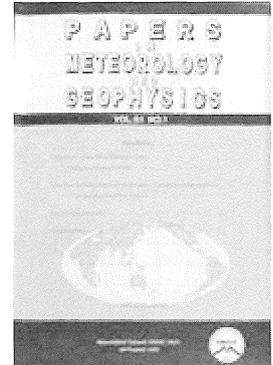
3.1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした季刊の論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国内の内外の研究機関・大学、気象官署など (国内約 700 箇所、国外約 250 箇所) で、国立国会図書館 (分館: 気象庁図書館) でも閲覧することができる。

平成 15 年度は第 54 巻として計 3 冊を発刊し、次の論文を掲載した。



第 54 巻 1 号

- Takayama, H., Application of statistical models to the geoelectric variations with a long electrode span for detecting anomalous changes
- Takayama, H., Estimation of low frequency apparent resistivity and phase using telegraphic facilities

第 54 巻 2 号

- Kodera, K., GRIPS Solar Experiments Intercomparison Project : Initial Results

第 54 巻 3/4 合併号

- Matsueda, H., et. al., Methane standard gases for atmospheric measurements in MRI and JMA and intercomparison experiments
- Kodera, K., K. Yamada, Impact of the SH major stratospheric warming on the Hadley circulation : A case study

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国内の研究機関・大学、気象官署など (国内約 800 部、国外約 250 部) で、国立国会図書館 (分館: 気象庁図書館) でも閲覧することができる。

平成 15 年度は、第 43 号～第 45 号の 3 号を発刊した。



第 43 号

大気及び海水中の超微量クロロフルオカーボン類の精密測定と気象研究所クロロフルオカーボン類標準ガスの確立 (地球化学研究部: 時枝隆之)

第 44 号

PostScript コードを生成する描画ツール “PLOTPS” マニュアル (予報研究部: 加藤輝之)

第 45 号

気象庁及び気象研究所における二酸化炭素の長期観測に使用された標準ガスのスケールと安定性の再評価に関する調査・研究 (地球化学研究部: 松枝秀和、他 15 名)

3. 刊行物・主催会議等

3.2. 発表会、主催会議など

気象研究所研究活動報告会

研究活動報告会は、気象研究所の研究活動や研究成果について、広く社会一般の方々の理解を促進するため、気象研究所が進めている研究のうち、特に気象業務や国の施策に関係の深い事柄について報告を行うもので、新たな気象研究所の取り組みとして平成15年度から開始した。

初年度となる平成15年度は、11月14日（金）に気象庁講堂（東京）で開催し、次の3題目を報告した。

報告題目

- ・地球温暖化がわが国の気候に及ぼす影響……………野田 彰・佐藤康雄
コメンテータ：市川惇信氏（地球温暖化研究イニシャティブ（気候変動研究分野）座長
杉 正人氏（気象庁気候・海洋気象部気候情報課長）
- ・メソ対流系の発生・発達メカニズムとその予測……………吉崎正憲・露木 義
コメンテータ：佐藤信夫氏（気象庁予報部業務課長）
- ・東海地域とその周辺における地殻活動……………吉川澄夫
コメンテータ：溝上 恵氏（地震防災対策強化地域判定会会長）
伊藤秀美氏（気象庁地震火山部地震予知情報課長）

気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を発表することにより、気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。

平成15年度は、12月8日（月）に気象研究所講堂（つくば市）で開催し、次の8題目を発表した。

報告課題

- ・ウィンドプロファイラを用いた水蒸気プロファイルの推定……………笹岡雅宏
- ・海水中の栄養塩の分布の解析：変動の検出のための標準試料の準備……………廣瀬勝己
- ・エルニーニョと大気海洋間二酸化炭素交換—海洋数値モデルによる研究……………小畑 淳
- ・エーロゾルの放射効果の実態解明とモデル化に関する研究……………内山明博
- ・地震波が示すマントル遷移層の厚さ、上部マントルの不均質および地殻底部の構造……………神定健二
- ・自己浮上式海底地震計観測による東海沖の地震活動……………青木 元
- ・東海地域とその周辺における地殻変動（2002-2003）……………山本剛靖
- ・東海地域における地殻変動シミュレーション……………黒木英州

21世紀のアジアの水資源変動予測に関するシンポジウム

気象研究所が研究代表者となって実施した「21世紀のアジアの水資源変動予測（2001～2003年度、科学技術振興調整費）」の成果報告と関連研究者との意見交換を主な目的とした国際シンポジウム。

このシンポジウムでは、国内外から88名（海外からは5カ国14名）の研究者が参加し、研究課題の関係者による講演の他、招待研究者による講演や関連分野の研究者との活発な議論が行われた。

期間：平成16年3月1日（月）～2日（火）

場所：つくば国際会議場（茨城県つくば市）

Program

Date：1th March 2004 (Monday)

Session 1：Topics of water circulation and water resource study in Asia-Pacific region (Chair：A. Kitoh)

Session 2：Land use and land surface environment (Chair：R. Shibasaki)

Session 3：Projection of global water circulation (Chair：T. Nozawa)

Date：2nd March 2004 (Tuesday)

Session 4：Projection of Asian water circulation (Chair：Y. Sato)

Session 5：Agricultural perspective of water resource in Asia (Chair：H. Ohno)

Session 6：Further perspective of variability of water resource in Asia (Chair：T. Oki)

4. 普及・広報活動

気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

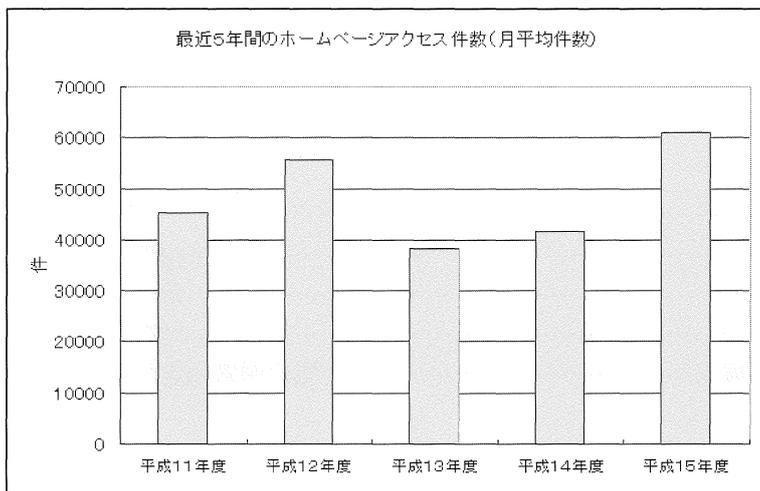
また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているものほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

4.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用している。

平成15年度には、ホームページのレイアウトや構成などを全面的に見直した。また、平成15年度の見直し時には、新たに「仮想展示室」を開設し、別途作成した研究パネルの画像を掲載して研究内容を紹介している。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からもリンクが張られており、平成15年4月から11月のアクセス件数は約49万件（平成15年12月～平成16年3月の間は、電子計算機システム更新のため集計から除外している）であった。



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

4. 普及・広報活動

4.2. 施設公開など

4.2.1. 一般公開、施設見学

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間*の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設公開のほか、ビデオ放映やパネル展示による業務紹介を行っている。

平成15年度は4月17日（木）に一般公開を実施し、約250名の来場者があった。

*科学技術週間とは

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、高層気象台、気象測器検定試験センターと共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。さらに、例年天気図講習会として天気図の描き方に関する講習会を行っており、小中学生から好評をいただいている。

また、このお天気フェアは、つくば市の「つくばちびっ子博士」の対象にもなっている。

平成15年度は、8月6日（木）に以下の内容で開催し、約900名の来場者があった。

天気図講習会（予報研究部）

実験・体験コーナー

- ・放球体験をしてみよう！……………高層気象台
- ・虹はどうして七色なの？……………物理気象研究部
- ・海の中の二酸化炭素って何？……………地球化学研究部
- ・地震の波を聞いてみよう！……………地震火山研究部
- ・温度計に関する実験と気象測器の展示……………気象測器検定試験センター

ビデオ上映（気象研究所概要ほか）

観測・研究施設見学

- ・大型気象風洞……………物理気象研究部
- ・風浪実験水槽……………海洋研究部
- ・測器参考館……………気象測器検定試験センター
- ・ドップラーレーダー……………気象衛星・観測システム研究部
- ・ウィンドプロファイラ……………気象衛星・観測システム研究部
- ・係留気球……………高層気象台
- ・ラジオゾンデ……………高層気象台
- ・観測器材の展示……………気象測器検定試験センター

施設見学など

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行なわれる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行なっている。

見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。

4.2.2. 普及・教育制度との連携

サイエンスキャンプ

サイエンスキャンプは、最先端の研究者による講演や研究現場の見学を通じ、次世代の科学技術の担い手である高校生の「科学技術に関する興味・関心を高め、創造的探求心を育てること」を目的にした、(財)

日本科学技術振興財団の事業である。

気象研究所では、平成9年度からサイエンスキャンプに協力し、次世代を担う生徒の芽を育んできた。平成15年度は、7月30日から8月1日の3日間、全国から10名の高校生を受け入れ、講義や実験などを行った。

講義内容

- ・成層圏オゾン予測モデルについて……………柴田清孝
- ・人工降雪—水資源管理を目指して—……………村上正隆
- ・気候と海洋……………安田珠幾
- ・電波と光で大気を見る……………中里真久
- ・台風の話……………北畠尚子
- ・天気予報の話……………林 修吾
- ・化学トレーサーを用いて知る地球現象—海洋中の物質のうごき—……………廣瀬勝己

見学内容

- ・大型気象風洞装置……………木下宣幸
- ・風浪実験水槽……………藤井陽介

上記のほか、隣接する気象測器検定試験センターと高層気象台の協力により、次の見学を実施した

- ・気象測器参考館の見学……………気象測器検定試験センター
- ・高層観測（ゾンデ放球）……………高層気象台

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が「理科大好きプラン」の一環として行なっている取り組みで、気象研究所では平成14年度から協力を行なっている。平成15年度はSSHとして指定を受けている2校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・9月12日 香川県立三本松高等学校
- ・11月28日 石川県立金沢泉丘高等学校